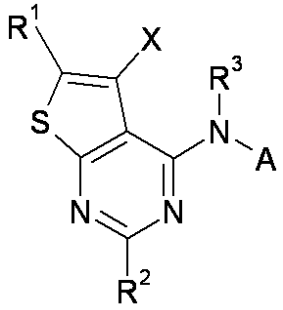
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成25年9月12日(2013.9.12)

【公表番号】特表2013-500985(P2013-500985A)
【公表日】平成25年1月10日(2013.1.10)
【年通号数】公開・登録公報2013-002
【出願番号】特願2012-523042(P2012-523042)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｄ 495/04 (2006.01)
Ａ０１Ｎ 43/90 (2006.01)
Ａ０１Ｐ 7/02 (2006.01)
Ａ０１Ｐ 7/04 (2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｄ 495/04 １０５
Ｃ０７Ｄ 495/04 ＣＳＰ
Ａ０１Ｎ 43/90 １０３
Ａ０１Ｐ 7/02
Ａ０１Ｐ 7/04

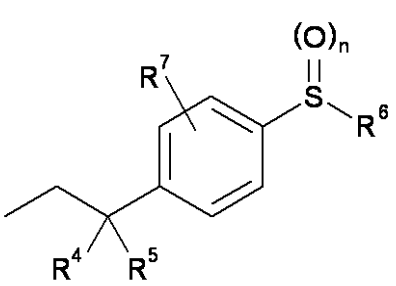
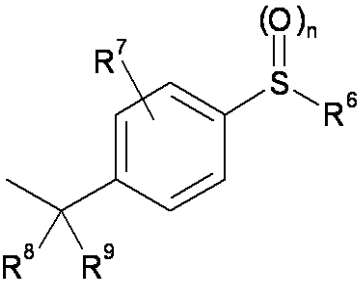
【手続補正書】
【提出日】平成25年7月23日(2013.7.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
下記式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物；或いはそのエナンチオマー、ジアステレオマー又は農業上若しくは獣医学的に許容できる塩：
【化１】



(式I)

（式中、
Xは、ハロゲン、C_1-C_{10}-アルキル又はC_1-C_{10}-ハロアルキルから選択され；
R^1は、水素、ハロゲン、ホルミル、C_1-C_{10}-アルキル、C_1-C_{10}-アルケニル、C_1-C_{10}-アルキニル、C_1-C_{10}-ハロアルキル、C_1-C_{10}-ハロアルケニル、C_1-C_{10}-ハロアルキニル、C_1-C_{10}-アルコキシ、C_1-C_6-アルコキシ-C_1-C_6-アルキル、C_1-C_{10}-ハロアルコキシ、C_1-C_{10}-アルキルチオ、C_1-C_{10}-ハロアルキルチオ、C_1-C_{10}-アルキルスルフィニル、C_1-C_{10}-ハロアルキルスルフィニル、C_1-C_{10}-アルキルスルホニル、C_1-C_{10}-ハロアルキル-スルホニル、C_1-C_{10}-アルキルアミノ、C_1-C_{10}-ハロアルキルアミノ、ジ(C_1-C_{10}-アルキル)アミノ、ジ(C

$_1$-C_{10})-ハロアルキルアミノ、CN、-CR^3=NOH、-CR^3=$NOCH_3$及び-CR^3=NOC_2H_5から成る群より選択され；
R^2は、水素、ハロゲン、C_1-C_{10}-アルキル、C_1-C_{10}-ハロアルキル、C_1-C_{10}-アルコキシ、C_1-C_6-アルコキシ-C_1-C_6-アルキル、C_1-C_{10}-ハロアルコキシ、C_1-C_{10}-アルキルチオ、C_1-C_{10}-ハロアルキルチオ、C_1-C_{10}-アルキルスルフィニル、C_1-C_{10}-ハロアルキルスルフィニル、C_1-C_{10}-アルキルスルホニル、C_1-C_{10}-ハロアルキル-スルホニル、C_1-C_{10}-アルキルアミノ、C_1-C_{10}-ハロアルキルアミノ、ジ(C_1-C_{10}-アルキル)アミノ及びジ(C_1-C_{10})-ハロアルキルアミノから成る群より選択され；
R^3は、水素、C_1-C_{10}-アルキル又はC_1-C_{10}-ハロアルキルから選択され；
Aは、下記式
【化２】


(A.1) 又は

(A.2)

（式中、
Nは、0、1又は2であり；
R^4、R^5、R^8及びR^9は、相互独立に、水素、CN、C_1-C_{10}-アルキル又はC_1-C_{10}-ハロアルキルから選択され；
R^6は、C_1-C_{10}フルオロハロアルキル、C_2-C_{10}フルオロハロアルケニル、C_2-C_{10}フルオロハロアルキニル及びC_3-C_7-フルオロハロシクロアルキルから成る群より選択され、ここで、前記フルオロハロアルキル基の炭素原子は、さらにC_1-C_{10}-アルコキシ、C_1-C_{10}-ハロアルコキシ、シアノ及び(C=O)R^qで置換されていてもよく、かつ
R^qは、アミノ、C_1-C_6-アルコキシ、C_1-C_6-ハロアルコキシ、C_1-C_6-アルキルアミノ、C_1-C_6-ハロアルキルアミノ、ジ(C_1-C_6-アルキル)アミノ及びジ(C_1-C_6)-ハロアルキルアミノから成る群より選択され；
R^7は、水素、ハロゲン、CN、C_1-C_{10}-アルキル、C_1-C_{10}-ハロアルキル、C_1-C_{10}-アルコキシ、C_1-C_6-アルコキシ-C_1-C_6-アルキル、C_1-C_{10}-ハロアルコキシ、C_1-C_{10}-アルキルチオ及びC_1-C_{10}-ハロアルキルチオから成る群より選択される）である）。
【請求項２】
AがA2であり；かつ
R^9が、水素、C_1-C_{10}-アルキル又はC_1-C_{10}-ハロアルキルから成る群より選択される、
請求項1に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項３】
AがA2であり；
R^8が水素であり；かつ
R^9がC_1-C_{10}-アルキル又はC_1-C_{10}-ハロアルキルである、
請求項1に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項４】
AがA2であり；
R^8が水素であり；
R^9がC_1-C_{10}-アルキル又はC_1-C_{10}-ハロアルキルであり；かつ
R^8及びR^9が結合しているキラル炭素原子にある置換基が(S)-配置である、
請求項3に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項５】

AがA2であり；
R^8が水素であり；かつ
R^9がメチルである、
請求項1に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項６】
AがA2であり；
R^8が水素であり；
R^9がメチルであり；かつ
R^8及びR^9が結合しているキラル炭素原子にある置換基が(S)-配置である、
請求項5に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項７】
R^7が水素である、
請求項1～6のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項８】
R^6がC_1-C_{10}-フルオロハロアルキルである、
請求項1～7のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項９】
R^6がトリフルオロメチルである、
請求項1～8のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項１０】
R^3が水素である、
請求項1～9のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項１１】
R^2が、水素、ハロゲン、C_1-C_{10}-アルキル及びC_1-C_{10}-ハロアルキルから成る群より選択される、
請求項1～10のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項１２】
R^2が水素である、
請求項1～11のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項１３】
R^1が、水素、ハロゲン、C_1-C_{10}-アルキル及びC_1-C_{10}-ハロアルキルから成る群より選択される、
請求項1～12のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項１４】
R^1が水素又はクロロである、
請求項1～13のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項１５】
Xがハロゲンである、
請求項1～14のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項１６】
Xがクロロである、
請求項1～15のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項１７】
Nが0である、
請求項1～16のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物。
【請求項１８】
有効量の、請求項1～17のいずれか1項に記載の式Iの少なくとも1種の4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物を含む、農業用又は獣医学的組成物。
【請求項１９】
昆虫、クモ又は線虫を駆除又は防除するための、請求項18に記載の組成物。

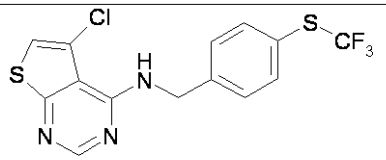
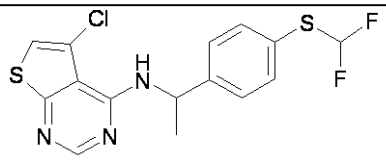
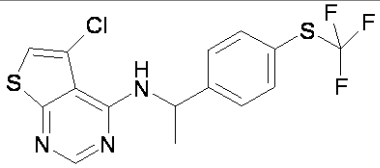
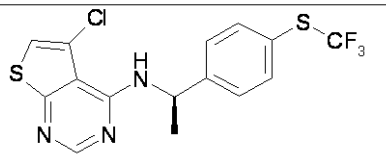
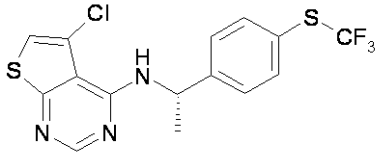
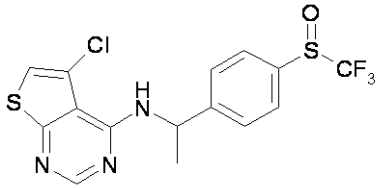
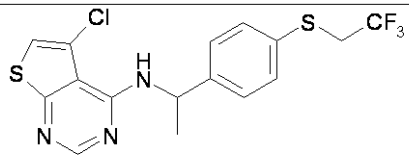
【請求項２０】
動物害虫、特に昆虫、クモ又は線虫を駆除又は防除するための方法であって、前記動物害虫を、有効量の、請求項1～17のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物、又はその少なくとも1種の化合物を含む組成物と接触させる工程を含む方法。
【請求項２１】
動物害虫、特に昆虫、クモ又は線虫による攻撃又は侵襲から作物及び成長している植物を保護するための方法であって、植物、又は植物がその中で成長している土壌若しくは水を、有効量の、請求項1～17のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物、又はその少なくとも1種の化合物を含む組成物と接触させる工程を含む方法。
【請求項２２】
土壌昆虫からの植物繁殖材料、特に種子の保護並びに土壌昆虫及び葉昆虫からの実生の根及び新芽の保護方法であって、前記植物繁殖材料、特に種子を播種前及び／又は発芽前処理後に、有効量の、請求項1～17のいずれか1項に記載の式Iの少なくとも1種の4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物、又はその少なくとも1種の化合物を含む組成物と接触させる工程を含む方法。
【請求項２３】
種子100kg当たり100mg～10kgの量で前記式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物を適用する、請求項22に記載の方法。
【請求項２４】
得られる植物の根及び新芽が保護される、請求項22に記載の方法。
【請求項２５】
種子100kg当たり0.1g～10kgの量で請求項1～17のいずれか1項に記載の式Iの化合物又はその農業上有用な塩を含む種子。
【請求項２６】
寄生虫による侵襲又は感染に対して動物（ヒトを除く）を処置、防除、予防又は保護するための方法であって、前記動物（ヒトを除く）に、有効量の、請求項1～17のいずれか1項に記載の式Iの4-アミノ-チエノ[2,3-d]-ピリミジン化合物、又はその少なくとも1種の化合物を含む組成物を経口、局所又は非経口投与する工程を含む方法。
【請求項２７】
双翅目、ノミ目、シラミ目及びクモ目由来の寄生虫が駆除される、請求項26に記載の方法。
【請求項２８】
蚊、ハエ、ノミ及び／又はマダニが駆除される、請求項26に記載の方法。
【請求項２９】
内部寄生虫が駆除される、請求項26に記載の方法。
【請求項３０】
前記内部寄生虫が、線虫、条虫、吸虫、及び原虫である、請求項29に記載の方法。
【請求項３１】
前記動物が飼育動物である、請求項26に記載の方法。
【請求項３２】
前記動物がネコ、イヌである、請求項31に記載の方法。
【請求項３３】
前記動物がヒツジ、ウシ、ウマ、ブタ又はニワトリである、請求項26に記載の方法。
【請求項３４】
寄生虫による侵襲又は感染に対して動物を処置、防除、予防又は保護するための経口、局所又は非経口適用可能若しくは投与可能な獣医学的薬物の調製のための、請求項1～17のいずれか1項に記載の式Iの化合物の使用。
【請求項３５】

寄生虫による侵襲又は感染に対して動物を処置、防除、予防又は保護するための薬物の製造のための、請求項1～17のいずれか1項に記載の式Iの化合物の使用。

【請求項３６】

下記構造を有する、請求項1に記載の化合物。

【化３】

化合物 実施例番号	構造
C.1	 ,
C.2	 ,
C.3	 ,
C.3-R	 ,
C.3-S	 ,
C.4	 ,
C.5	 又は
C.6	